

登録10年の取り組み報告④

生きもの調査で
分かる生物多様性

綾町がユネスコエコパークに登録された2012(平成24)年から2年間、エリア内の生きもの調査「動植物の生育・生息基礎調査」が行われました。

調査は環境省の生物多様性保全推進支援事業を受けて、各分野の専門家の協力のもと進められました。それまでも照葉樹林内の調査の報告はありましたが、人里近くの生きもの調査は過去に行われておらず、この調査で初めて綾町に生息する動植物の実態が明らかになりました。

調査の結果、森林だけでなく伝統的な管理が続く身近な里地里山においても、絶滅危惧種を含む数多くの生きものが確認されました。県内で初めて確認された種類もありました。その後、職員による継続調査や町民からの情報提供などにより生きもの確認種数は増え続けており、あらためて綾ユネスコエコパークの生物多様性の高さが証明されつつあります。

これは、長年にわたって自然環境を保護してきたことや自然生態系農業に取り組んできたことなど、町民の皆さんの努力のたまものと言えます。世界的に取り組みが進んでいるSDGsの実践・達成や地球環境の持続可能性に大きく貢献するものとして、「自然と共生するまち」として、綾ユネスコエコパークとして、将来も変わらず努力を続けていかなければならないのです。



トサムラサキ



ウスキキヌガサタケ



ベニイトトンボ



ミゾゴイ

綾ユネスコエコパークで確認された生きものの種数

動植物の分類群	科	種数
維管束植物	176科	1350種
真菌類(キノコ)	担子菌	54科 266種
	子囊菌	13科 22種
蘚苔類(コケ)	蘚類	36科 127種
	苔類	23科 57種
地衣類		21種
小型哺乳類	樹上棲	2種
	地上・地下棲	3種
	コウモリ類	2科 4種+未確認2種
哺乳類(全般)	14科	24種
鳥類	里山	35科 74種
鳥類(全般)		39科 107種
爬虫類	9科	13種
両生類	5科	14種
水生生物	魚類	26種
	エビ・カニ	10種
	貝類	7種
	水生昆虫	68種
	その他	12分類群
貝類	陸産	21科 87種
	淡水産	10科 11種
昆虫類	里山全般	230科 1284種
	甲虫類	72科 603種
	チョウ類、ガ類	35科 680種
土壌動物	ササラダニ類	53科 123種以上
	トビムシ	11科 59種

綾ユネスコエコパーク推進室・ユネスコエコパークセンター
☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館

column

サワダメゲンゴロウ

標高の高い溪流沿いの水たまりに生息する、8〜9cm程度の非常に小さなゲンゴロウ。全国に分布していますが、暖かい本県では珍しい部類に入ります。今春行われた調査で、綾ユネスコエコパーク内で初めて確認されました。

既存の研究では、本州地方の約1万5千年前の地層から本種の昆虫化石が見つかっており、かなり古い時代から、きれいな水が流れ込む涼しい環境に住み続けてきたことが分かってきました。綾町には照葉樹林だけでなく、こうした寒冷な時代から生き続けてきた生きものたちが生活できる多様な自然環境が残されていることを実感できる存在です。



ムラの肖像

1970年代に撮影された養蚕の様子です。久木野々地区では、二反野地区にあった飼養所から幼虫を自宅に持ち帰り繭を作っていたそうです。写真は、畑で栽培したクワの葉を与えて大切に育てた「お蚕さま」を選別している作業風景。最も労力が必要な作業で、どの養蚕農家も家族総出で働いていたといえます。

当時、全国的に盛んだった養蚕。中国産の生糸の流通で養蚕が衰退すると、久木野々の主産業は自然生態系農業に移っていきました。



※昨年11月から町内の小規模集落で行っている「綾の肖像プロジェクト」で集めた写真の中から毎月紹介します